

(様式1)

平成28年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校
学校長 小酒 正明

1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

3 教育方針

- (1) 「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- (2) 部活動、生徒会活動、学校行事への積極的な参加を通じて、豊かな人間性や自主・自立の精神、ルール・マナーを守る人材を育成する。
- (3) 実習や課題研究を通して、働くことの意義や喜びを実感するとともに、社会の動きに関心を持つ人材を育成する。

4 今年度の重点目標

- (1) 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、論理的思考力や想像力を養う。
- (2) 生徒の社会・対人関係力（規範意識、公共心、リーダーシップ）の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。
- (3) 学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。
- (4) キャリア教育（インターンシップ、資格取得等）を強化し、生徒が望む進路に進めるよう進路意識を高める。

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
1 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、論理的思考力や想像力を養う。	① 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、課題の活用、家庭学習の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 家庭学習時間を毎日1時間以上確保できる生徒の割合を50%以上にする。	家庭学習を毎日1時間以上取り組むことができた。 A. 1時間以上取り組んだ B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 4.6 % B: 32.0 % C: 46.1 % D: 17.3 %	昨年度と比べ、ABの割合が少し上回ったが、まだまだ改善が見られない。来年度は外部模試や資格試験などの学習目標を与えることで、家庭学習の時間増加や基礎学力の定着を図りたい。また、学習指導委員会でも検討していきたい。
	② 朝自習、放課後・夏季休業中・定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝自習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝自習、補習等の学習指導で生徒が取り組むことができた。 A. 十分取り組むことができた B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 23.0 % B: 40.3 % C: 27.5 % D: 9.2 %	教科担任及びホーム担任の協力のもと、ABの割合がCDの割合よりも上回った。今後とも継続していきたい。また、学習意欲がもっと上がるような学習指導について考えていきたい。
	③ 習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	学力が向上したと思う生徒の割合が全体の A. 60%以上であった B. 50%～59%であった C. 40%～49%であった D. 40%未満であった	C・Dの場合は方法を再検討する。	A: 11.7 % B: 45.5 % C: 30.9 % D: 11.9 %	昨年度と比べ、ABの割合が下回った。生徒の躰き箇所を探り、それに対する効果的な指導法を考えていきたい。
	④ 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部、学年主任、担任、生徒、保護者による面談を行う。	生徒、保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒、保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒、保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 7.8 % B: 60.9 % C: 28.1 % D: 3.1 %	ホーム担任及び教科担任による指導はもちろん、成績不良者に関する情報を成績会議などの場で共有するなど、全体で生徒に対しての効果的な学習指導方法を考えていきたい。
	⑤ 補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知、把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 A 十分周知された B 一応周知された C あまり周知されなかった D 周知されなかった	C・Dの割合が40%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 25.0 % B: 67.2 % C: 7.8 % D: 0 %	案内のプリントや掲示板等を利用して全体に周知させるなどの対策が実施された。今後もさらに周知度を上げるよう効果的な方法を考えていきたい。
	⑥ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率、進学決定率	就職決定率、進学決定率が A 両方とも98%以上 B 一方は98%以上、一方は95%以上98%未満 C 両方とも95%以上98%未満 D 上記以下	C, Dの場合は、取り組み方を再検討する。	2月21日時点で就職決定率は98% 進学決定率は96%である。	完全とは言えないが、概ねよい結果を出せた。今後も生徒の進路実現のために取り組みたい。
	⑦ 金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信や図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。	【成果指数】 図書館利用者、及び本の貸出冊数の増加と蔵書の充実を目指す。	図書館の年間貸し出し冊数が前年度の利用者数を上回ることを目指す。 A 上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	A 2月末時点で、1日当たりの利用者数が72人(昨年は65人)であり、また、1人当たりの平均貸出冊数が5.2冊(昨年は4.2冊)であった。	図書館の利用者数及び平均貸出冊数のどちらも、昨年度を大きく上回る結果となった。来年度もさらに利用者を増やすよう工夫していきたい。

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
2 生徒の社会・対人関係力(規範意識、公共心、リーダーシップ)の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカップを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカップ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B (平均 2.2人)	傘さし運動実施日数 19日 違反者 累計43人 昨年度より微減したが より0 に近づくよう指導していく。
	② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数(半期) A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	概ねA (平均 0.9人) ※特定クラス=B	1年 15、2年 1、3年 1 例年 1年生の違反者が多いので入学当初から説明・指導する必要がある。
	③ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数(年間)が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B (平均 1.02人)	授業日 3年 167日、1・2年 182日 遅刻者 全校累計 358人 昨年度より平均人数が微減したので基本的な生活習慣の定着を今一度はかりたい。 また複数回の生徒が目立つので個別に説諭する必要がある。
	④ 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80%以上 B 70～79% C 60～69% D 60%未満	70%未満の場合改善を検討する	A (95%)	生徒のアンケートよりほとんどの生徒が進んで挨拶していると答えた。ただ、自己評価のアンケートであり、さらにさわやかな挨拶ができるように日頃から指導していく必要がある。
	⑤ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A. ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B. だいたい行うことができた C. あまり行わなかった D. ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A : 61.9 % B : 35.6 % C : 2.1 % D : 0.3 %	ゴミの分別、持ち帰りはしっかり行っている。
	⑥ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	A : 18.7 % B : 51.8 % C : 19.3 % D : 10.2 %	A・B合わせた値は1年生が少なく、学年を追うごとに増加。学年が進行するにつれ、さまざまな悩みを持つようになって考えられる。
	⑦ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 実習を始める前に安全教育を行う。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	B : 1件	実習中にガラスの破片により負傷 道具の破損における事例のため、使用方法も含めて注意喚起を行う。

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
3 学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。	① 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 部活動加入率の向上を図る。	全学年の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A 運動部500、文化部199で加入率97%である。	高い加入率であるが、文化部には掛け持ちの生徒もいると考えられる。また、途中でやめてしまう者も若干名いると思われる。
		【努力指標】 1年生年度当初の部活動加入率の向上を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A	高い加入率である。しかしまだ全員というわけではないので、未加入者に対する声かけが必要である。
		【成果指標】 春と夏の全国大会出場の数増加を図る。	春または夏の全国大会出場ができた部活動数が A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D なし	Dの場合は対策を考える必要がある。	A 水球、相撲、新体操、ボウリング、ハンドボール、バドミントン、弓道	水球のインターハイ・国体の優勝などいろいろな部が頑張ったといえる。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70%未満の場合は、再検討する。	A : 34.2 % B : 35.2 % C : 17.3 % D : 13.2 %	A・Bの合計が70%をわずかに切っている。学年別にみると1年生がA・B合計で64%となり充実感が低い傾向にあり、2年生は75%と高くなる。1年生にも自覚を持たせたり、活躍の場をあたえないといけない。
	② 応援練習及び高校相撲金沢大会を学校をあげての行事として設定し、一丸となって応援することで学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 自ら進んで応援練習に取り組んだ。	応援委員の参加率が A 100%である B 90%である C 80%である D 80%未満である	A・B合わせてが70%未満の場合は、取り組み方を検討する。	B	長い1日を団長を中心に大変よく頑張っていた。
		【満足度指標】 相撲大会本番で同じ学校に学んでいるという生徒の意識が高まった。	応援に参加して A 大変盛り上がった B 盛り上がった C 盛り上がらなかった D まったく盛り上がらなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A : 71 % B : 26 % C : 3 % D : 0 %	生徒が一丸となり、本校への帰属意識や愛校心も高まったと思われる。応援に参加して、金市工としての誇りや連帯感が持てたかという質問に97%が持てたと答えている。
③ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部・工業科がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 自ら進んで創立記念祭に参加し、取り組む意識が高まった。	金工祭に取り組む意識が A 十分が高まった B 少し高まった C あまり高まらなかった D ほとんど高まらなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A : 66 % B : 33 % C : 0 % D : 1 %	クラスの団結をはかるクラス企画に99%が協力してやれたと答えている。	
④ ボランティア活動を推奨する。(海岸清掃等)	【努力指標】 夏の海岸清掃の参加者を増やす	海岸清掃ボランティア参加者が A 100人以上 B 80～100人 C 60～80人 D 60人未満	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A 200名参加	暑い中、生徒はよくやってくれた。また、参加者も多くよかった。	
⑤ 全校集会で校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80%以上である B 70%～79%である C 60%～69%である D 60%未満である	70%未満の場合、改善を検討する。	A : 20 % B : 64 % C : 14 % D : 2 %	応援練習の時期は大きな声で歌えているが、しばらく時間があくと、小さな声で歌う生徒が多くなって来る。	
⑥ 高校生ものづくりコンテスト大会(旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等)及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指数】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会入賞 B 北信越大会(ブロック大会入賞) C 県大会入賞 D 入賞なし	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	A 電子情報科：プログラミングコンテスト優勝	その他 機械科 ソーラーラジコンカー 2位3位4位 アメフトロボット 全国大会出場 産業教育フェア ロボット大会 全国大会出場 建築科 ものづくりコンテスト(木材加工) 全国大会出場	

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）および改善策など
4 キャリア教育（インターシップ、資格取得等）を強化し、生徒が望む進路に進めるよう進路意識を高める。	① 就業体験学習、工業人養成企業実習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習、工業人養成企業実習に参加し A 進路意識が大いに高まった B 進路意識が少し高まった C 進路意識はかわらなかった D 進路意識を高めるに至らなかった	C, Dの場合は事後指導をしっかりと行い、次年度の事前学習について検討する。	A	各科発表会を行い、意識が高まったと感じている。
	② ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	C：44名	例年多くの受賞者を輩出しているところが低迷したのが全体の受賞者減少になってしまった。ポイントの大幅みなおしもあったので、資格試験を確実にとらせるよう指導を考える。
	③ 英検・漢検・数検などの資格取得に対する意欲を高め、合格率も上げる。	【努力指標】 資格取得に向け生徒の意識を高め、資格受験者を多くし、さらに合格率を上げる。	資格受験者の年間延べ受験者数を増やし、さらに合格率を上回ることを目指す。 A かなり上回った B 少し上回った C ほぼ同じであった D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	数検は受験者数はほぼ同じだが合格率が向上した。英語・漢検は受験者・合格率とも昨年を下回った。	受験者数の増加を目指すとともに、もっと合格するための努力を促さなければならない。